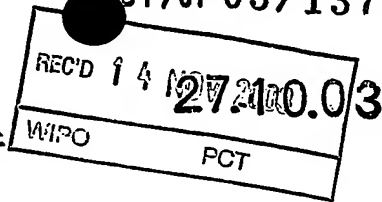


Rec'd PCT/PTO 29 APR 2005

PCT/JP 03/13736



日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年10月30日  
Date of Application:

出願番号 特願2002-315653  
Application Number:  
[ST. 10/C]: [JP 2002-315653]

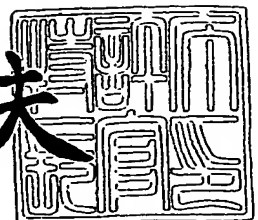
出願人 松下電器産業株式会社  
Applicant(s):

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 9月19日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井康夫



BEST AVAILABLE COPY

出証番号 出証特2003-3077245

【書類名】 特許願  
【整理番号】 2036740110  
【提出日】 平成14年10月30日  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 G03G 15/04  
B41J 3/21

## 【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 中村 哲朗

## 【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 益本 賢一

## 【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 豊村 祐士

## 【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 濱野 敬史

## 【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 行徳 明

## 【特許出願人】

【識別番号】 000005821

【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

## 【代理人】

【識別番号】 100083172

## 【弁理士】

【氏名又は名称】 福井 豊明

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009483

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9713946

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像書込装置の光源

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 発光素子と、当該発光素子から発せられた光線を感光ドラム上で結像させる光伝送手段を備えた画像書込装置の光源において、

上記光線の進行方向を変換する変換手段を備え、

さらに、上記光伝送手段が、上記変換手段にて進行方向が変換された光線を感光ドラム上で結像させることを特徴とする画像書込装置の光源。

【請求項 2】 上記発光素子が、基板の一方の面に当該一方の面に対して垂直に光を発するように形成され、

上記変換手段が上記発光素子上に形成された請求項 1 に記載の画像書込装置の光源。

【請求項 3】 上記変換手段が基板の一方の面に形成され、

上記発光手段が、上記変換手段上に当該変換手段に対して光を発するように形成された請求項 1 に記載の画像書込装置。

【請求項 4】 上記発光素子が、基板の一方の面に当該一方の面に対して垂直に光を発するように形成され、

上記変換手段が、上記基板上の他方の面に形成された請求項 1 に記載の画像書込装置の光源。

【請求項 5】 上記変換手段が、上記光源を所定の方法に反射させるプリズムである請求項 1 に記載の画像書込装置の光源。

【請求項 6】 上記変換手段が、上記光線を所定の方法へ導く導波路である請求項 1 に記載の画像書込装置の光源。

【請求項 7】 上記所定の方法が、基板に対して平行な方向である請求項 4 または 6 に記載の画像書込装置の光源。

【請求項 8】 上記変換手段が、上記光線の進行方向を上記感光ドラムの法線方向に変換する請求項 1 に記載の画像書込装置の光源。

【請求項 9】 上記画像書込装置が、複数の感光ドラムが直列に配列された請求項 1 に記載の画像書込装置の光源。

【請求項 1 0】 上記発光素子が、有機エレクトロルミネッセンスから構成される請求項 1 に記載の画像書込装置の光源。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、画像書込装置の光源に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

カラーレーザプリンタ（以下、単にプリンタという）1 0 0 においては、高速印刷が可能であるという観点から、図 1 3 に示す Y（イエロー）M（マゼンダ）C（シアン）B（ブラック）4 色の可視像を並行して印刷できるタンデム方式と呼ばれる印刷方式を採用したものがある。タンデム方式においては、上記 4 色の可視像を並行して形成するため、プリンタ 1 0 0 には図 1 4 に示す除電器 1 0 5、感光ドラム 1 0 6、帯電器 1 0 7、光源 2 0 0、現像器 1 0 8 等から構成される書込機構 1 1 0 が 4 つずつ備えられている。

【0 0 0 3】

図 1 2 に示すトレイ 1 0 1 に差し込まれた用紙 1 2 0 は、搬送用ローラ 1 0 2 にて、プリンタ 1 0 0 内部の搬送路 1 0 3 に送り込まれる。この用紙 1 2 0 の搬送に同期して、各色の感光ドラム 1 0 6 に上記光源 2 0 0 から発せられる書込光によって潜像が形成され、さらに現像機 1 0 8 によって可視像が形成される。

【0 0 0 4】

用紙 1 2 0 は、搬送路 1 0 3 内において各感光ドラム 1 0 6 に形成された可視像が転写されて、さらに定着器 1 0 9 にて可視像が定着されてプリンタ 1 0 0 から出力される。

【0 0 0 5】

上記光源 2 0 0 は、図 1 5 に示すように主走査方向に多数の L E D（Light Emitting Diode）等からなる発光素子 8 が形成された主走査方向に長い基板 6 0 1 を備えている。発光素子 8 は、基板 6 0 1 に対して垂直方向に光線 A を発し、図 1 5 に示すように当該光線 A は、ロッドレンズや、ファバーレンズ等の光伝送

手段 3 1 0 を通過して、感光ドラム 1 0 6 上で結像して潜像を形成する。

#### 【0 0 0 6】

このように光線 A が感光ドラム 1 0 6 に照射するように、基板 6 0 1 は、図 1 5 に示すように基板 6 0 1 の短辺を副走査方向（感光ドラム 1 0 6 の軸と垂直方向）と平行とし、さらに基板 6 0 1 の発光素子 8 が形成された面を感光ドラム 1 0 6 と対面するように配置されている。

#### 【0 0 0 7】

##### 【特許文献 1】

特開昭 5 8 - 4 6 3 6 1 号公報

##### 【特許文献 2】

特開昭 5 8 - 5 8 5 6 6 号公報

#### 【0 0 0 8】

##### 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、光源 2 0 0 が、発光素子 8 として必要な発光強度を出力するためには、発光素子 8 にはある程度の大きさが必要とされる。また、基板 6 0 1 には、発光素子 8 を発光させるためのドライバ等の部品を配置する必要がある。これらの理由により、基板 6 0 1 の短辺は、ある程度の長さが必要となる。

#### 【0 0 0 9】

しかし上述のように、基板 6 0 1 の短辺を副走査方向と平行とし、発光素子 8 が形成された面を感光ドラム 1 0 6 と対面するように配置すると、基板 6 0 1 の短辺が長いと、それだけ各色の書込機構 1 1 0 の副走査方向が長くなってしま

。

#### 【0 0 1 0】

タンドム方式を採用したプリンタ 1 0 0 においては、4 色の書込機構 1 1 0 が副走査方向に直列に配置されるため、書込機構 1 1 0 の副走査方向の長さが少しでも長くなると、プリンタ 1 0 0 全体がかなり大きくなってしま

#### 【0 0 1 1】

そこで、本発明は、プリンタの小型化のため、各色の書込機構の間隔を短くしてプリンタの小型化を実現させるために、副走査方向が短い光源を提供すること

を目的とする。

#### 【0 0 1 2】

##### 【課題を解決しようとする手段】

本発明は、発光素子から発せられる光線の進行方向を変換させることで、基板が配置される向きに関係なく、感光ドラムに対して法線方向に光線を照射することができる画像書込装置の光源を提案する。

#### 【0 0 1 3】

光線の進行方向を変換させるために、本発明の画像書込装置の光源には、光線の進行方向を変換する変換手段を備える。この変換手段は、プリズムであっても、光線を複数回反射させることで光線の進行方向を変換させる導波路であってもよい。

#### 【0 0 1 4】

この変換手段を備えることで、従来のように感光ドラムに光線を照射するために、基板の短辺を副走査方向と平行とし、基板の光が発せられる発光面を感光ドラムと対面するように配置するという制限がなくなる。したがって、基板の短辺に対して、基板の発光面から封止ガラスの天頂部までの長さ（高さ）が短い場合、基板の高さ方向を副走査方向と平行とし、長辺方向と高さ方向で形成される面を感光ドラムと対面させるように配置すると、副走査方向の短い光源を実現することができる。

#### 【0 0 1 5】

##### 【発明の実施の形態】

##### （実施の形態 1）

本発明の画像書込装置の光源 2 0 0（以下、単に「光源 2 0 0」という）は、従来と同様に、図 1 3 に示すようなカラーレーザプリンタ（以下、単にプリンタという）1 0 0 の光源 2 0 0 に用いられる。

#### 【0 0 1 6】

本実施の形態における光源 2 0 0 は、図 1 に示すように主走査方向に長い透明基板 3 0 1 と光伝送手段 3 1 0 とから構成されている。上記透明基板 3 0 1 の一方には次に示すような方法で複数の発光素子 8 の列が形成される。

## 【0017】

まず、図2（A）に示すように透明基板301の所定の面の全面にITO（Indium Tin Oxide）等の透明電極層2が塗布される。次に透明電極層2のうち陽極としての透明電極素子1を形成する部分が遮光層3でマスクされ、当該透明電極層2に対して露光、現像、エッチング等のフォトリソ処理が行われる。フォトリソ処理により、図2（B）に示すようにマスクされていない部分が透明基板301上から取り除かれて、マスクされていた部分が透明電極素子1となる。

## 【0018】

続いて、図2（C）に示すように透明電極素子1が形成された透明基板301の上面全面に有機EL（Electro Luminescence）層4が塗布され、該有機EL層4の上面に共通電極として金属電極層5が塗布される。この金属電極層5と上記透明電極素子1に挟まれた部分の有機EL層4が発光素子8となる。

## 【0019】

なお、上記有機EL層4を物理的な衝撃や、湿気から保護するために封止処理が行われる。この封止処理とは、図2（D）に示すように、上記封止処理部304にガラスフィラーを含んだエポキシ樹脂等の接着性のある樹脂6を塗布して、金属電極層5と樹脂6とを封止ガラス7で覆う処理である。以上のように形成された発光素子8は、透明基板301に対して垂直方向に光線Aを発し、図2（D）に示すように透明電極素子1を通して、透明基板301から出射される。

## 【0020】

上記透明基板301は、図1に示すように透明基板301の長辺方向Lと、高さ方向Hとで形成される面Gを感光ドラム106と対面するように配置されている。

## 【0021】

さらに、上記透明基板301の発光素子8が形成された面と反対側の面（以下、発光面301aという）の上記発光素子列に対面する位置には、主走査方向に長いプリズム401が配置されている。

## 【0022】

上述のように発光素子8から発せられた光線Aは、上記透明電極素子1と透明



基板 301 を通過して上記発光面 301a に出射するため、光線 A は透明基板 301 から出射すると、プリズム 401 に入射することになる。

#### 【0023】

ここでプリズム 401 としては直角プリズムが用いられ、直角を形成する一面から入射した光が、斜面 401a で方向を直角に変えて上記直角を成す他の面から出射するようになっている。これによって光線 A は、プリズム 401 に入射すると、プリズムの斜面 401a にて反射して、進行方向を透明基板 301 と平行な向き（感光ドラム 106 の法線方向）に変換する。

#### 【0024】

さらに、上記プリズム 401 と上記感光ドラム 106 の間には、プリズム 401 から出射した光線 A を感光ドラム 106 上で結像させて潜像を形成する光伝送手段 310 が配置されている。

#### 【0025】

上記光伝送手段 300 は、ファイバーレンズ 303、ロッドレンズ、マイクロレンズ等光学系を複数束ねたレンズアレイで構成されている。なお、上記光伝送手段に用いられる光学系は、イメージ伝送系のレンズであっても、光量伝送系のレンズであってもよい。本実施の形態においては、上記光伝送手段 300 として、図 3 (A) ～図 3 (C) に示すファイバーレンズ 303 を複数本束ねたファイバーレンズアレイを用いている。

#### 【0026】

このファイバーレンズアレイは、図 3 (A)、図 3 (B) に示す主走査方向に長い 2 つの基枠 311 と 2 つの基枠 311 間に所定の間隔で設けられた光吸収層 312 とで囲われた複数の空間に、軸方向を感光ドラム 106 の法線方向にしたファイバーレンズ 313 を複数配列し、ファイバーレンズ 313 間を不透明の樹脂等で充填して構成されている。上記光吸収層 312 はファイバーレンズ 313 間のクロストークを防ぐためのものであり、例えば図 3 (C) に示すように光吸収層 312 となる不透明の樹脂等を各ファイバーレンズ 313 の外周に塗布しても同じ効果を得ることができる。さらに、上記基枠 311 間に設けられた光吸収層 312 とファイバーレンズ 313 の外周に塗布した光吸収層 312 とを併用し

てもよい。

#### 【0027】

上記プリズム401にて進行方向が変換された光線Aは、上記光伝送手段310を通過して、上記感光ドラム106を照射して潜像を形成する。

#### 【0028】

以上のように、光線Aの進行方向を変換する変換手段としてプリズム401を光源200に備えることで、従来のように透明基板301の発光面301aを感光ドラム106と対面させなくても、発光素子8から発せられた光線Aは、感光ドラム106を照射することができる。

#### 【0029】

図4(A)は、透明基板301の短辺sに比べて、発光面301aから封止ガラス7の天頂部7aまでの長さ(以下、単に高さという)hが短い場合に、従来のように透明基板301の短辺sを副走査方向に平行とし、透明基板301の発光面301aを感光ドラム106と対面するように配置した場合の書込機構110の断面を示している。また図4(B)は、透明基板301の長辺方向Lと高さ方向Hとで形成される面Gを図1のように感光ドラム106と対面するように配置した書込機構110の断面を示している。図4(B)に示すように、面Gを感光ドラム106と対面するように配置することで、光源200の副走査方向が短くなるので、副走査方向の短い書込機構110を実現することができる。

#### 【0030】

光源200の副走査方向が短くなることで、図13に示す書込機構110の副走査方向が短くなり、各々の感光ドラムピッチが狭くなることでプリンタ100全体を小型できるようにする。

#### 【0031】

また、上記では図1に示すように、変換手段となるプリズム401は、光線Aの進行方向を90度変換しているが、進行方向を変換する角度は、プリズムの斜面401aの角度を調整することで自由に変えることができる。

#### 【0032】

したがって、光線Aが発せられる向きよりプリンタ100の全体の小型化や、

プリンタの製造し易さ等を優先してプリンタ 100 内部の部品のレイアウトを設計することができる。

### 【0033】

なお、上記では変換手段としてプリズム 401 が用いられている場面について説明したが、変換手段は、発光素子 8 から発せられる光線 A の進行方向を変換することができる物体であれば、形状、材質等は限定されるものではない。

#### (実施の形態 2)

上記変換手段としてプリズム 401 以外にも、透明で、屈折率が空気及び、上記透明基板 301 よりも高い物質でできた図 5 に示すような導波路 402 が考えられる。図 5 (A) に示すように導波路 402 に入射した光線 A が出射する出射面 408 と対向する対向面 407 には金属等の透過性の無い物質でできた反射材 404 が積層されている。

### 【0034】

この導波路 402 は、図 6 に示すように発光面 301 a の透明電極素子 1 と対面するそれぞれの位置にプリズム 401 の代わりに上面 405 を発光面 301 a 側にして配置される。

### 【0035】

実施の形態 1 に記載のように発光素子 8 は、図 6 の下側に光線 A を発する。したがって、発光素子 8 から発せられた光線 A は、透明電極素子 1、透明基板 301 を通って、上記導波路 402 の上面 405 から導波路 402 に入射するようになる。

### 【0036】

上述のように対向面 407 には反射材 404 が積層されており、導波路 402 の屈折率が、空気及び透明基板 301 よりも高いために、上面 405 より導波路 402 に入射した光線 A は、導波路 402 内で全反射を繰り返して出射面 408 から出射する。

### 【0037】

したがって、導波路 402 を通過することで光線 A の進行方向が図 6 の下向きから左向き、即ち 90 度変換される。

## 【0038】

なお実施の形態1と同様に導波路402の出射面408から出射した光線Aは、上記光伝送手段310を通過して、上記感光ドラム106を照射して、潜像を形成する。

## 【0039】

また、上記では図6に示すように導波路402を用いて光線の進行方向を90度変換する場合について説明しているが、導波路402の長手方向を図7に示すように光線Aを出射させたい方向にすることで、光線Aの進行方向を出射させたい方向に変換することができる。

## 【0040】

さらに、以上のような導波路402を変換手段として用いる場合、発光素子8の発光面積がどのような大きさであっても、出射面408から出射する光の断面積は、出射面408と同じ大きさとなる。したがって、発光面積の大きい発光素子8を透明基板301上に形成することで、上記射出射面408から出射する光の光束密度が高くなる。

## 【0041】

よって変換手段として導波路402を用いることで、光源200は、副走査方向が短くなるとともに、光束密度が高い光を出力することができるようになる。なお、導波路402の形状は図5(A)に示す直方体でなくても、図5(B)、図5(C)に示すような五角柱、六角柱等の多角柱であってもよい。

## 【0042】

(実施の形態3)

実施の形態1、2においては、透明基板301の発光面301aにプリズム401、または導波路402を配置した場合について説明したが、図8から図10に示すように発光素子8が形成された面と同一の面にプリズム401又は導波路402を配置してもよい。

## 【0043】

即ち、封止ガラス7の上にプリズム401を配置し、発光素子8から発せられる光線Aを実施の形態1、2と反対側に発して、光線Aを封止ガラス7を介して

プリズム 401 に入射させるようにする。

【0044】

しかし実施の形態 1 のように発光素子 8 を形成すると、発光素子 8 の上側には不透明な金属電極層 5 が形成されるので、光線 A を封止ガラス 7 側に出射することが不可能である。有機 EL の発光効率を向上させるためには、陰極には、陽極となる透明電極素子 1 よりも仕事関数の低い物質を陰極に用いなければならないから、陰極には不透明な金属電極層 5 が用いられている。

【0045】

そこで、光線 A を封止ガラス 7 側から出射指せるために、図 8 に示すように上記金属電極層 5 を光が透過できる程度の厚さ（約 100 Å）にする。そして薄い金属電極層 5 に均一に電流が流れるように、金属電極層 5 の上に透明電極層 5a を形成しておく。

【0046】

これによって光線 A は図 8 の上向きに出射することができるが、下向きにも出射することができるので、下向きの出射することを防ぐために透明基板 301 と透明電極素子 1 との間に反射板 309 を設ける。

【0047】

また、実施の形態 1 と同じように有機 EL 層 4 を物理的な衝撃や湿気から保護するために樹脂 6 と封止ガラス 7 で、有機 EL 層 4、金属電極層 5、透明電極層 5a を覆うようにする。

【0048】

このように金属電極層 5 を薄くすることで、発光素子 8 から発せられた光線 A が封止ガラス 7 から出射し、封止ガラス 7 上に配置されたプリズム 401 に入射する。

【0049】

プリズム 401 に入射した光線 A は、実施の形態 1 と同様に、斜面 401a にて反射して、進行方向を変換して、プリズム 401 から出射する。

【0050】

以上のようにプリズム 401 が発光素子 8 が形成された面と同一面に配置され

た場合、光伝送手段 310 も発光素子が形成された面と同一面に配置される。これにより、プリズム 401 から出射した光線は、光伝送手段 310 を通って、上記感光ドラム 106 を照射して、潜像を形成する。

#### 【0051】

以上のように発光素子 8 が形成された面と同一面にプリズム 401 と光伝送手段 310 を配置することで、透明基板 301 の発光素子 8 が形成された面と反対面には、何も形成されないために、光源 200 の取り扱いが便利となる。

#### 【0052】

なお、上記のように封止ガラス 7 上にプリズム 401 を配置せずに、図 9、図 10 に示すように金属電極層 5 上に積層される透明電極層 5a と樹脂 6 の上にプリズム 401、或いは導波路 402 を配置しても良い。この場合プリズム 401、導波路 402 が封止ガラス 7 としての役目も果たすこととなる。

#### 【0053】

(実施の形態 4)

プリズム 401、導波路 402 を透明基板 301 と発光素子 8 との間に配置してもよい。

#### 【0054】

プリズム 401 を透明基板 301 に配置する場合、図 11 に示すように、まず透明基板 301 上にプリズム 401 を支持するための屈折率がプリズム 401 より低い材料、または不透明な材料等を透明基板 301 に塗布して、透明基板 301 上に支持台 502 を形成する。次に、プリズムの斜面 401a を支持台 502 側にして、支持台 502 上にプリズム 401 を配置する。

#### 【0055】

そして実施の形態 1 で透明基板 301 上に発光素子 8 を形成した方法で、プリズム 401 上に発光素子 8 を形成する。さらに透明基板 301 のプリズム 401 が配置された面に光伝送手段 310 を配置する。

#### 【0056】

図 11 に示すように、発光素子 8 から発せられた光線 A は、透明電極素子 1 を通ってプリズム 401 に入射し、斜面 401a にて反射して進行方向を変換する

。反射した光線Aは、光伝送手段310を通して感光ドラム106に潜像を形成する。

#### 【0057】

また、図12に示すようにプリズム401に変えて、透明基板301と発光素子8との間に下面403を透明基板301側にして導波路402を配置してもよい。

#### 【0058】

導波路402上には、プリズム401を配置した場合と同様に発光素子8が形成される。発光素子8から発せられた光線Aは、実施の形態2のように導波路402内で反射を繰り返して出射面408から出射する。出射した光線Aは、光伝送手段310を通して、感光ドラム106に潜像を形成する。

#### 【0059】

上記では、本発明の画像書込装置の光源200をタンデム方式を採用したカラーレーザプリンタ100に用いた場面について説明したが、本発明の画像書込装置の光源200は、タンデム方式を採用していないカラーレーザプリンタや、モノクロ印刷のみ可能なレーザプリンタの光源としても用いることができる。

#### 【0060】

##### 【発明の効果】

変換手段を設けることで、発光素子から発せられた光線の進行方向を自由に変えることができるので、発光素子の発光方向に関係なく、光源の配置する向きを決めることができる。そのため、副走査方向が短くなる向きに光源を配置することで、プリンタの小型化を図ることができる。

##### 【図面の簡単な説明】

##### 【図1】

プリズムが変換手段として用いられた光源と感光ドラムの断面図

##### 【図2】

発光素子の製造過程を示した図

##### 【図3】

光伝送手段の外観図

【図 4】

画像書込装置の光源と感光ドラムの概略図

【図 5】

導波路の形状を示した図

【図 6】

導波路が変換手段として用いられた光源と感光ドラムの断面図

【図 7】

導波路が変換手段として用いられた光源の断面図

【図 8】

プリズムが変換手段として用いられた光源の断面図

【図 9】

プリズムが変換手段として用いられた光源の断面図

【図 10】

導波路が変換手段として用いられた光源と感光ドラムの断面図

【図 11】

プリズムが変換手段として用いられた光源の断面図

【図 12】

導波路が変換手段として用いられた光源の断面図

【図 13】

プリンタの概略図

【図 14】

図 13 の光源部分の拡大図

【図 15】

光源の概略図

【符号の説明】

8 発光素子

100 プリンタ

106 感光ドラム

301 透明基板



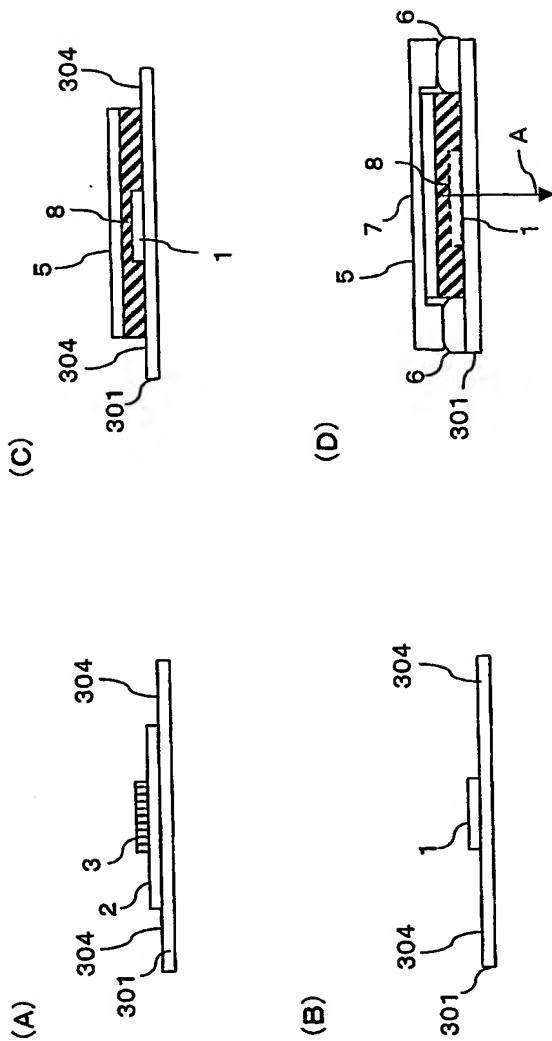
3 1 0 光伝送手段

4 0 1 プリズム

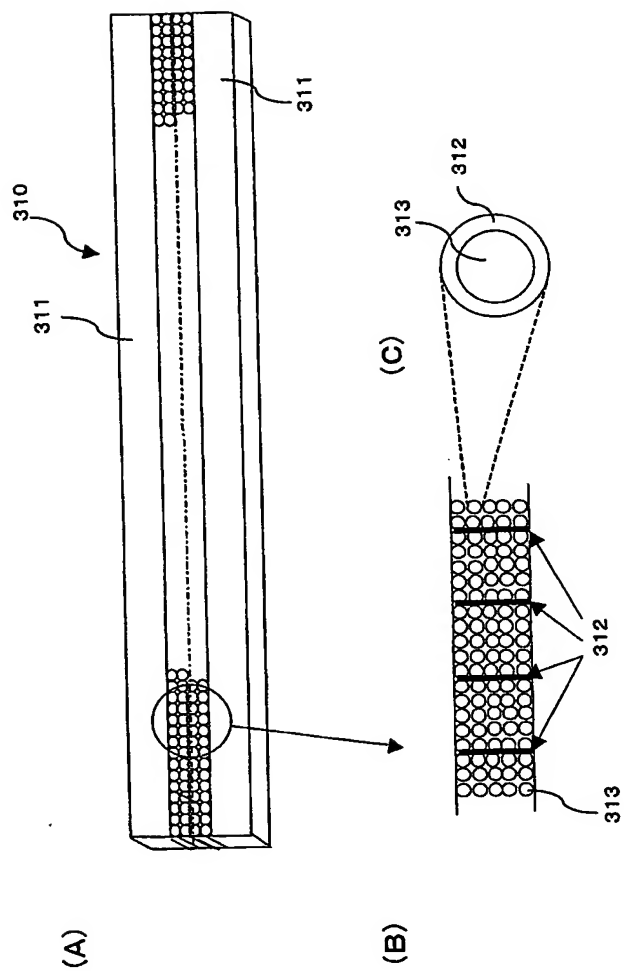
4 0 2 導波路



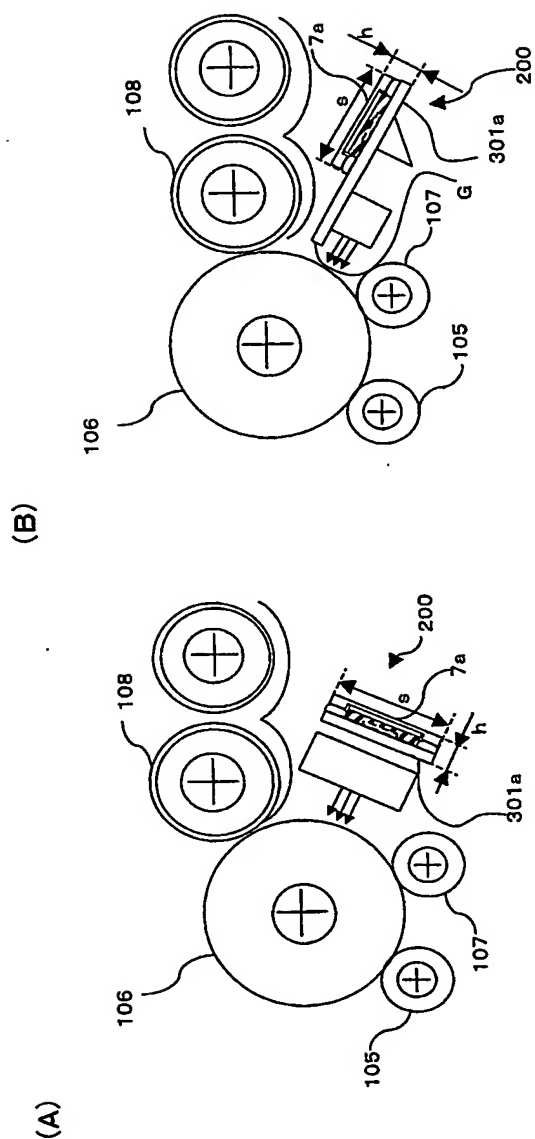
【図 2】



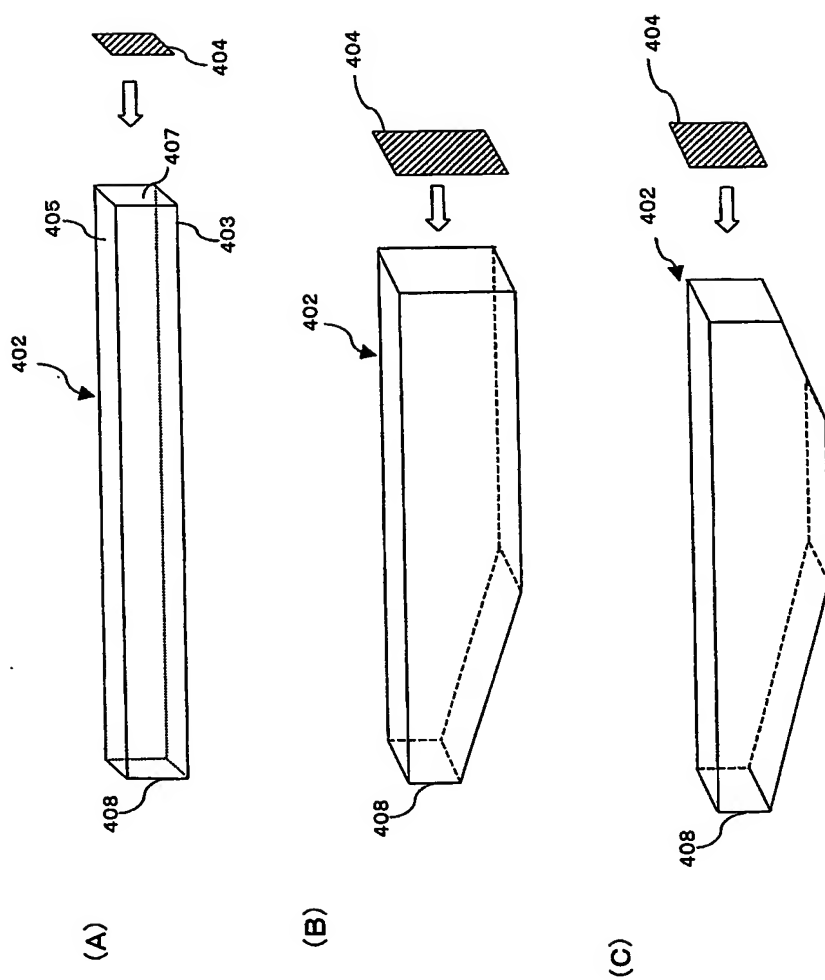
【図 3】



【図4】

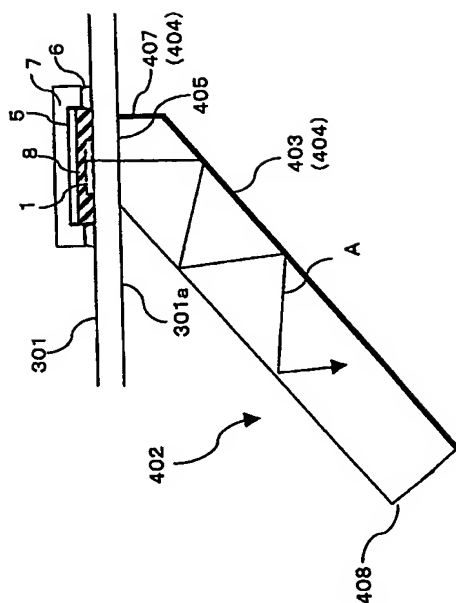


【図 5】



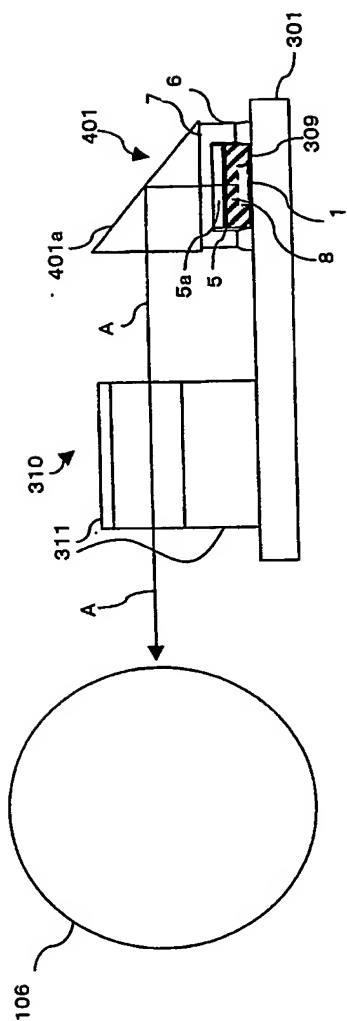


【図 7】

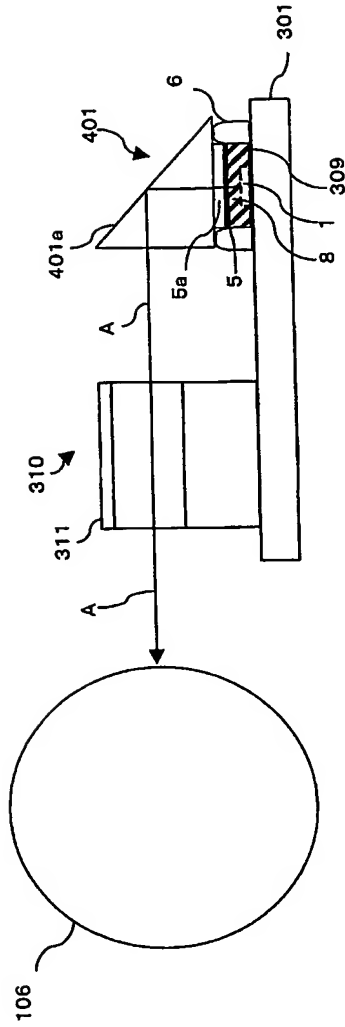




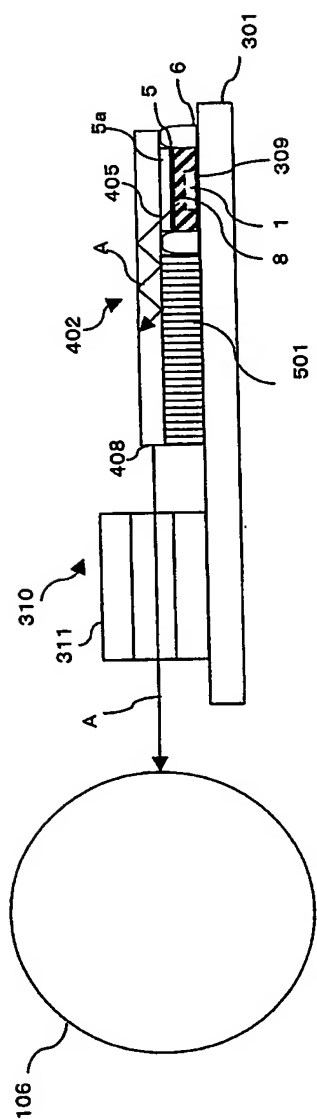
【図 8】



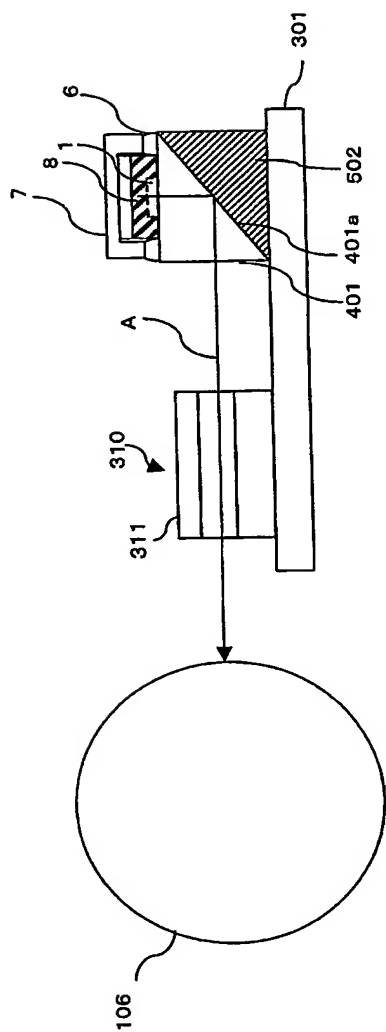
【図 9】



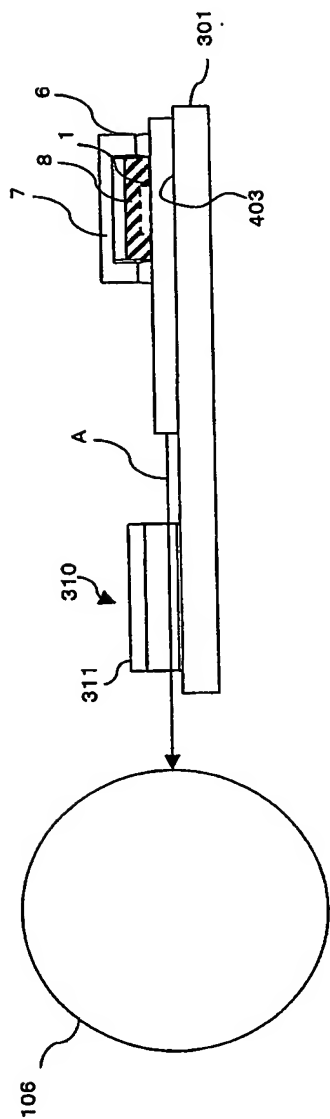
【図10】



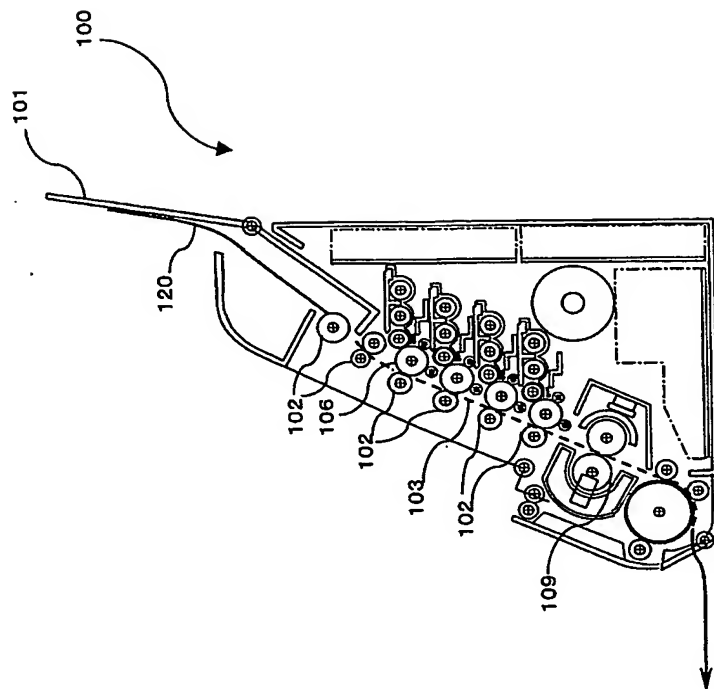
【図 11】



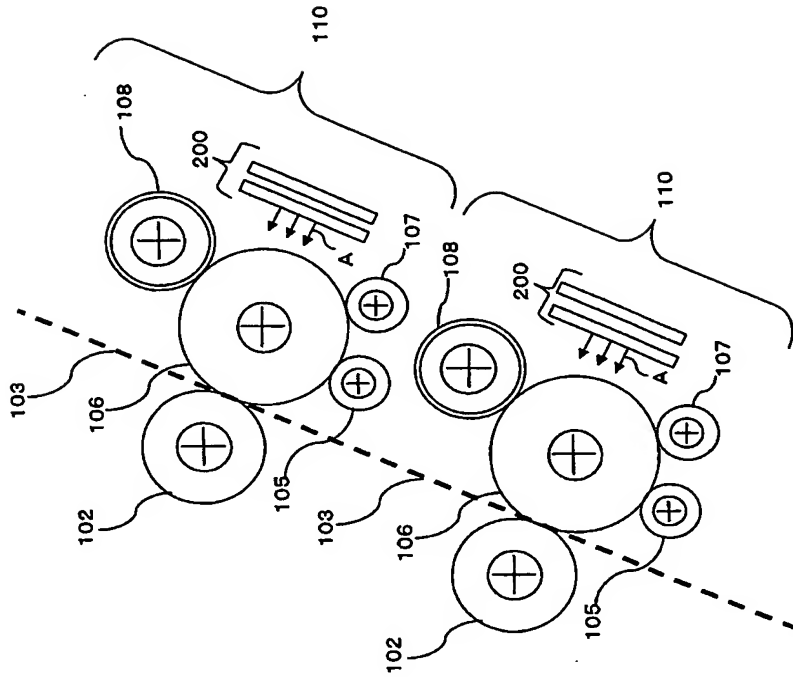
【図 12】



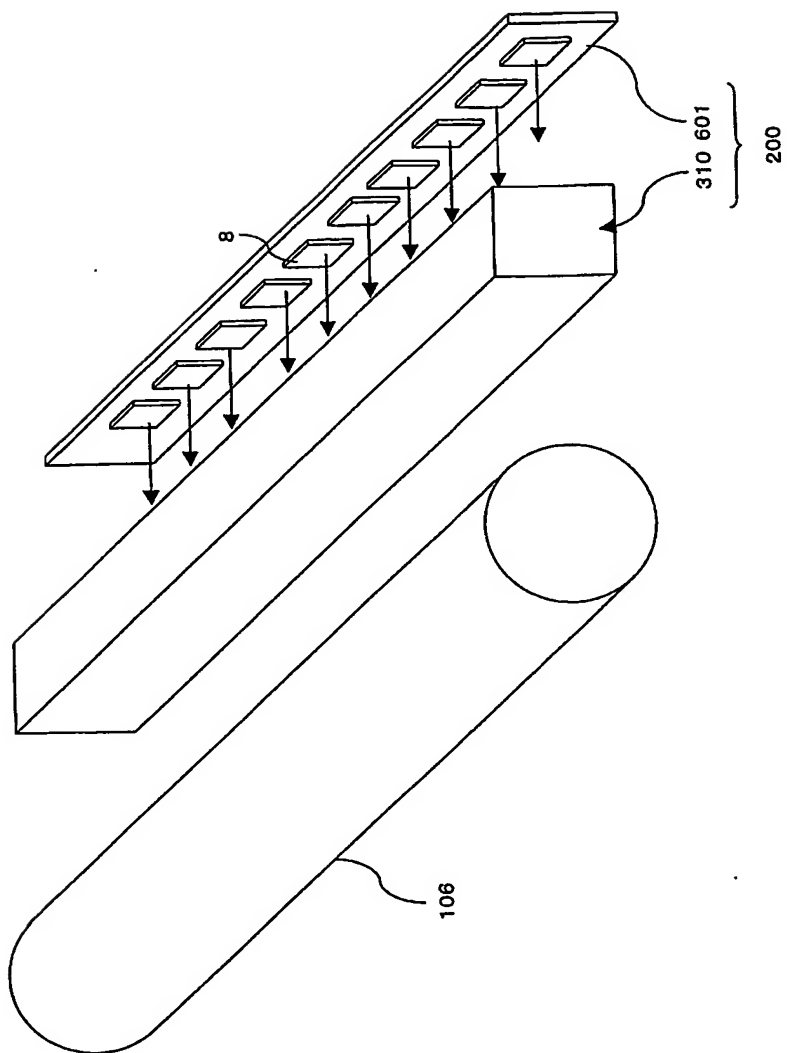
【図13】



【図 14】



【図15】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 プリンタの小型化のためには、各色の書込機構の副走査方向を短くする必要があるが、書込機構の光源の構成上、光源の副走査方向を短くすることができないため、プリンタの小型化を実現することができない。

【解決手段】 光源から発せられた光線の進行方向を変換する変換手段を光源に設ける。これにより、光線が発せられる向きを考慮しなくても光源を配置する向きを決めることができる。

【選択図】 図1

特願2002-315653

出願人履歴情報

識別番号

[000005821]

1. 変更年月日

1990年 8月28日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府門真市大字門真1006番地

氏 名

松下電器産業株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**